

# 第2回「日本語体験コンテスト in プンペン」 実施報告書

- 【実施日】 2014年8月28日(木) 予選会:13:00～ 本選会:14:30～
- 【会場】 カンボジア・プノンペン市 インターコンチネンタルホテル
- 【主催】 一般財団法人 共立国際交流奨学財団
- 【現地運営団体】 NPO 光語学スクール
- 【後援】 文部科学省  
在カンボジア日本国大使館  
全日本空輸株式会社バンコク支店
- 【協賛】 株式会社 共立メンテナンス
- 【協力団体】 メコン大学



前列左より 永井実行委員、土井先生(CBTC 校長)、樋口先生(メコン大学)、  
阿部二等書記官(在カンボジア日本国大使館)、菊川実行委員長、北原審査委員長、  
森審査委員(共立財団日語学院)

後列左より SEM SOKLENG、CHAN SOPHEAKTRA、CHEY SOMALA、KIN MANET、SEU SONGHY

## ＜総評＞

昨年度から開催しております、「日本語体験コンテスト in プノンペン」は、今年度無事に第2回目を開催することが出来ました。

今年度は8月28日(木)カンボジア・プノンペン市において、第2回「日本語体験コンテスト in プノンペン」を開催致しました。

2回目という事もあり、応募総数は昨年度より増え、116名でした。その内、99名が当日参加し、20名が予選会を通過、本選会のスピーチコンテストへ進みました。

予選会では、日本の政治、経済、文化、文学、歴史、地理、社会、流行などについての聞き取り問題30問を日本語で出題し、日本語能力だけではなく日本についての知識を試しました。30問のうち11問以上の正解者が予選会を通過しました。

本選会では、その場で出された3つのスピーチ課題、①わたしが日本人に紹介したいカンボジアの有名人は・・・②私が訪れてみたい日本の世界遺産は・・・③私が社長だったら、日本企業と一緒につくりたいものは……。以上の課題から1つを選択し、5分のシンキングタイムの後、3分間の即興スピーチを行いました。

審査委員3名による審査の結果、5名が入賞し、実行委員長より賞状と賞品目録を授与されました。入賞賞品は、「夢・日本体験賞」で、2015年1月19日(月)～1月27日(火)(8泊9日 2泊機内泊)の日本体験旅行に招待致します。

この日本体験旅行で、日本留学の為の第一歩として日本を理解し、最終的に日本留学をして、将来日本・カンボジア両国の発展に貢献する人材となることを願っております。

## ＜実施報告＞

### ■ 予選会

予選会	13:00～13:05	開会の辞・受付開始
	13:10～	予選会（日本語聞き取り問題 30 問）

申 込 者 ：            116 名   ⇒   出 席 者   ：            99 名

日本の政治、経済、文化、文学、歴史、地理、社会、流行などについての聞き取り問題 30 問



受付では、日本の学校パンフレットを配布しました



真剣な表情で予選問題に取り組みます



## ■ 本選会

本選会	14:30～	予選通過者発表(20名)
	14:40～	開会の辞・審査委員紹介・注意事項説明
	14:50～14:55	シンキングタイム
	14:55～	スピーチ

予選通過者： 20名 ⇒ 入賞者： 5名

課題： ①わたしが日本人に紹介したいカンボジアの有名人は・・・

②私が訪れてみたい日本の世界遺産は・・・

③私が社長だったら、日本企業と一緒に作りたいたものは・・・

③の課題を選んだ学生が多く、「日本企業と協力して日本語の教材をもっとカンボジアに普及させたい」など、とても興味深いスピーチばかりでした。緊張の中、3分間精一杯スピーチしていました。



3分間の即興日本語スピーチ

## ■ アトラクション

メコン大学の学生がカンボジアの伝統舞踊と AKB48 の「恋するフォーチュンクッキー」を披露してくれました。



会場を盛り上げてくれました。

## ■ 表彰式

表彰式	16:00～	「夢・日本体験賞」発表(5名)
-----	--------	-----------------

### 式次第

- 一、開会の辞
- 一、実行委員長挨拶
- 一、来賓挨拶
- 一、審査委員長講評
- 一、賞状授与
- 一、閉会の辞



菊川実行委員長挨拶



来賓挨拶 安倍二等書記官  
在カンボジア日本国大使館



北原審査委員長講評



入賞者5名に理事長より賞状と目録を授与



【入賞者】 『夢・日本体験賞』



氏名	所属学校(日本語学校)
チャン ソペトラ CHAN SOPHEAKTRA	Camed Buisness 大学 2 年(CJCC)
チェイ ソマラー CHEY SOMALA	カンボジア大学 3 年 (CJCC)
スー ソンヒー SEU SONGHY	PPIU 大学 2 年 (タヤマ学校)
キン マネット KIN MANET	王立プノンペン大学 1 年 (CBTC)
セム ソクレン SOKLENG	PPI 大学 2 年 (CBTC)

入賞者5名には、『夢・日本体験賞』(8泊9日の日本体験旅行)を贈呈致します。  
今年度は、日本滞在期間が1日増え、草津での雪体験を予定しております！

# 講 評

審査委員 森 陽子

共立財団日本語学院 教員



今回、予選会から問題の読み上げを担当し、カンボジアの日本語学習者の皆さんの真剣な眼差しを目の当たりにしました。

予選通過者、15名のスピーチも同じテーマを選んでも、内容は多種多様で、そのほとんどが、自国の発展を願う未来を見据えたものでした。

テーマとして一番多く選ばれたのは、「わたしが社長だったら、日本企業と一緒に作りたいものは・・・」。作りたいものは、日本語学校、日本語教育の本など、身近なものから、電車の会社、農薬のない安全な食品、喫茶店の図書館。

とりわけ印象深かったのは、農薬のない安全な食品。カンボジアにおける現代病を例に挙げ、問題提起をしながら、今後、どのように解決していくべきかがわかりやすく述べられていました。電車の会社については、国民がどのようにすれば、平等な交通手段を手に入れられるかが広い視野で語れていました。また、喫茶店の図書館も女性らしく、夢のある心温まる内容でした。

次にテーマとして、多かった「わたしが訪れてみたい日本の世界遺産は・・・」では、やはり富士山が多く挙がりました。日本語学習過程で、習う語彙ではありますが、皆さん、よく富士山のことを調べていて、行ってみたいという興味と熱意がよく伝わってきました。

スピーチをなさった方、それぞれ個性があり、日本に対する親しみ、興味、日本語学習の成果がよく表れていましたが、全員のスピーチを全て聞き終えて、なお心に残った5名が今回選ばれたと思います。

今後も日本語、日本文化を広める立場として、日本をよく知っている人はより深く、知らない人は少しでも日本に触れる機会として、コンテストの参加者が増えてくれることを願います。





## 一般財団法人 共立国際交流奨学財団

所在地：〒101-0021

東京都千代田区外神田 2 丁目 18 番 8 号

TEL : 03-5295-0205

FAX : 03-5295-0206

URL : <http://www.kif-org.com>